

IAUD Newsletter vol.14 第11号(2022年2月号)目次

1. CM 字幕プロジェクト 字幕プレビュー会参加報告…………… 1
2. 第2回ドバイ国際アクセシブル観光サミット講演報告…………… 5
3. 第24回UD検定・初級オンライン開催のご案内…………… 9
4. IAUD 2022年2月の予定…………… 9

より視聴者に寄り添った字幕制作へ

活動報告:CM 字幕プロジェクト 字幕プレビュー会参加



CM 字幕プロジェクトが参加したオンライン「字幕プレビュー会」の様子

字幕付きCM普及を目的に活動しているCM字幕プロジェクトは、2021年11月30日(火)にオンラインで開催された「字幕プレビュー会」(主催:読売テレビ字幕センター・株式会社エイデック放送制作部)に参加しました。

当日は字幕制作会社エイデックから字幕関係者10名、同プロジェクトからメンバー6名(うち当事者3名)の計16名が参加し、事前に字幕付き映像を視聴した際のアンケート結果を基に意見交換を行いました。そこでは、より視聴者に寄り添った字幕について多様な意見や提案が多く挙がり、大変有意義な内容となりました。

今号のNewsletterでは、字幕プレビュー会の概要と参加した感想を同プロジェクトの高橋雅尚主査が報告します。

字幕ルールが視聴者に伝わっているか

今回の字幕プレビュー会は、エイデックより、「作った字幕を多くの人々に見ていただけるのはとても嬉しいが、観る側のニーズと合っているか」「作る側が当然の前提としている字幕ルールが視聴者にきちんと伝わっているか」などの懸念があり、実現しました。

当事者との意見交換を通じて、作る側と観る側で「必要とされていること」を改めて整理し、制作現場にフィードバックすることで、より視聴者に寄り添った字幕制作へとシフトしていくきっかけにするのが目的とのことでしたので、CM 字幕プロジェクトでは喜んで協力させていただきました。

なお、字幕プレビュー会開催にあたり、CM 字幕プロジェクトからの参加メンバーは事前にテレビ番組「半妖の夜叉姫」「アンラッキーガール！」「ダウタウン DX」の合計約 2 時間程度の字幕付き映像を視聴し、レイアウトや表示時間、表現方法などで気になったところや良かったところをまとめておきました。



事前視聴を行った番組(左上から)「半妖の夜叉姫」「アンラッキーガール！」「ダウタウン DX」

字幕制作者と当事者で議論

字幕プレビュー会当日は Google のビデオ会議システム Meet によるオンラインミーティング形式で、手話通訳やチャット、UD トーク(音声認識字幕)など、様々な情報保障ツールを利用しました。

まずは、事前視聴した「半妖の夜叉姫」「アンラッキーガール！」「ダウタウン DX」の字幕付き映像を再度全員で視聴しました。

さらに、エイデックから日ごろ字幕制作をしている中で、字幕表現に関して感じている疑問点が下記のとおり挙げられました。

字幕制作側からの主な疑問点

- ・ドラマやアニメでの「ガラスが割れる場面」や「雷が鳴る場面」では、状況の具体的な説明と擬音による表現の 2 通りがあるが、どちらが印象に残るか。
- ・心の声、回想、妄想、夢、ナレーションなどの画面外から聞こえてくる声を表現するカッコの形は、オフマークという外字で<セリフ>のように挟む表現にしているが、このように矢印の意味や記号の使い分けがあることを知っていたか。
- ・3 行の字幕など量が多くてもストーリーに入っていけるか、またはきちんと読めるか。
- ・臨場感を表現する手法として、“笑い” “拍手”を入れる必要があるか。
- ・読めない漢字がある場合にはルビ(フリガナ)は必要か。
- ・番組の中で方言が使われているときは、方言のままで良いか。

このような制作側の疑問点を念頭に入れつつ、事前に字幕付き映像を視聴した CM 字幕プロジェクトメンバーからのアンケート結果をもとに意見交換を行いました。議論となった主な項目は以下のとおりです。

議論となった主な項目

- ・雨が降る場面や雷が鳴る場面では、雨の強さや雷鳴の大きさを感じてもらうために表記の強弱を表現したり、どんな音が聞こえるのか具体的な表記があると伝わりやすい。(ゴロゴロ、ガラガラバシャーンなど)
- ・話者によって黄色、水色、白など色の振り分けをしていれば、誰が話しているのかわかりやすい。ただし、口元が見えない場合や別位置でキャラが発言しているセリフは、適宜「話者名」を入れたほうが良い。
- ・TV マーク[㊦]はパッと見てもわかりにくい。“テレビ音声”という具体的な表記が良い。
- ・話者の画面に対する立ち位置(左右)に合わせて字幕を微妙にレイアウトする工夫は、臨場感を感じやすく良い。
- ・難しい用語や名前、漢字が多いとかえって読みにくく、ストーリーが追いつかないこともあるので、小学生でも読めるようひらがな表記にしたり、適所にルビを振ったほうが良い。
- ・オープニングやエンディング、途中で流れるテーマソングなどの“♪～”は、どんな音楽が流れているのか簡単な説明表記があっても良い。(おどろおどろしい音楽、軽快なリズムなど)
- ・画面の外から聞こえてくる声は、オフマーク< >などの記号を使っているのがわかりやすい。
- ・番組の演出上、番組字幕(テロップ)との併記が多いと却って読みづらく、視線が追いつかないこともある。
- ・行数が多くても、出演者の顔にかぶらない配慮が必要。口唇の部分や顔、目周辺に字幕がかぶってしまうと表情を読み取れず、ストレスを感じることもある。

これらの意見に対しては、エイデックから字幕を入れる際の制約や記号の使い分け、レイアウトなどで苦労している点の説明がありました。

例えば、「♪～」の音符マークは、普通に音楽として流れている場合は1個のみで表現し、バックグラウンドで流れているような音楽の場合は「♪～」で表現するとの説明があり、我々当事者も知らず驚いてしまいました。

このように、当事者が記号の意味を理解していなければ字幕に記号をつける意味がないため、関係団体に働きかけて記号に対するガイドラインを作ることも重要だとの意見が出ました。

聴覚障害者や高齢者へ更なる字幕サービス推進

最後に、エイデックが取り組んでいる字幕付き CM 推進活動について説明がありました。

2021年4月より、「CCS(クローズドキャプション※スポンサー)」のセールスを新たに開始したそうです。CCSとは、「字幕放送提供テロップ+字幕付きCM」をセットにして、番組提供スポン

サーが番組と番組内で流す CM にも字幕を付けようというもので、これにより視聴者やスポンサーに対して「字幕放送」や「字幕付き CM」の認知拡大を促進することが目的です。

さらに、今後も読売テレビとエイデックは「視聴者にわかりやすい字幕を全番組に付与する」ことを目標に、聴覚障害者や高齢者へ向けた字幕サービスの拡充を推進していく、との心強い言葉がありました。

最後に、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、このようなエイデックと CM 字幕プロジェクトとの意見交換を定期的実施していきたい、ということで字幕プレビュー会を締めくくりました。
※テレビ放送で視聴覚障害者向けに音声などを字幕化したもの。リモコン操作などで表示・非表示が可能。

情報格差のない、誰も取り残さない社会へ

終了後、主催したエイデックの岩城大輔氏からは、「制作現場で長く働いていても視聴者の声を聴く機会がなく、今回はとても良い機会だった。利用者側でも求めるものの微妙な違い、様々な意見や感じ方があるとわかり、大変勉強になった。一方、健常者が得られる情報量をそのまま“字幕放送利用者の皆様に伝えること”の重要性と難しさも改めて感じた。すぐにでも現場にフィードバックできそうなことは速やかに取り入れていき、また、挙げられた様々な意見についてはグループ内で話し合い、より視聴者に寄り添った字幕を今後も目指していきたい」との感想がありました。

今回の字幕プレビュー会は、CM 字幕プロジェクトにとっても関西圏での字幕付き CM 普及促進のための新しい取り組みを知る大変有意義なイベントになりました。当事者と制作者側の意見や本音がたくさん出て、忌憚なく意見交換ができた実感しています。

また、サンプル映像としてソフトバンク株式会社提供の CM「白戸家の家族」が紹介されましたが、今までは健常者しか理解できなかった白い犬のお父さんが発するセリフと家族のセリフがやっと理解できた、と喜びと感動は大きく、コンセプト「みんなにつたえる」というのはこういうことだと感じました。

メディア、デバイス、視聴者など対象は大変幅広く、それでも制作現場ではどのような表現が最適かを突き詰めていくのはかなり時間と労力を要するでしょう。

ただ、字幕を必要とする方々はたくさんいます。少しでも情報格差をなくすために、CM 字幕プロジェクトもこれからいろいろな現場の方々と積極的に意見交換をしていきます。

※株式会社エイデックの公式サイトは[こちら](#)をご覧ください。



活発な意見交換が行われた



すべての人が観光地にアクセスできるように 「第2回ドバイ国際アクセシブル観光サミット」講演報告



ハイブリッド形式で開催された「第2回ドバイ国際アクセシブル観光サミット」会場の様子

アクセシブルな観光を促進するため国際的な事例を共有する「第2回ドバイ国際アクセシブル観光サミット (Dubai Accessible Tourism International Summit)」が2022年1月12日(火)にアラブ首長国連邦(UAE)第2の中心都市ドバイにある JW マリオット・マーキスホテルで開催され、川原啓嗣専務理事がオンラインで講演しました。

川原専務理事は日本国内でのUDを活用した新型コロナウイルス感染症対策について、2021年2月に開催した「第8回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2021 in ザ・クラウド」で提示された事例などを紹介しました。

今号の Newsletter ではサミットの開催概要について川原専務理事が報告します。

テーマは「Tourism for Everyone」

「ドバイ国際アクセシブル観光サミット」は2019年11月に開催された1回目^{*}に続き、今回も「Tourism for Everyone(観光地をすべての人が利用できるようにする)」をテーマに、米国、英国、イタリア、スペイン、クウェートなど世界各国から政府高官や国際機関関係者、専門家などの講演者による6つの基調講演と8つのプレゼンテーション、2つのパネルディスカッションが行われました。

サミットの総裁であるアハマド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下は、現在のドバイ首長ムハンマド・ビン・ラーシド・アル・マクトゥーム殿下の叔父にあたり、ドバイ民間航空庁長官兼エミレーツ航空会長でもあります。



アハマド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下

今回はコロナウイルス感染症対策のためハイブリッド形式で行われ、UAE 国内からの登壇者は JW マリオット・マーキスホテルに設置された会場で講演し、海外からの登壇者は Zoom によるオンラインで講演して、その映像が会場内のスクリーンに同時配信されました。



パネルディスカッションの様子

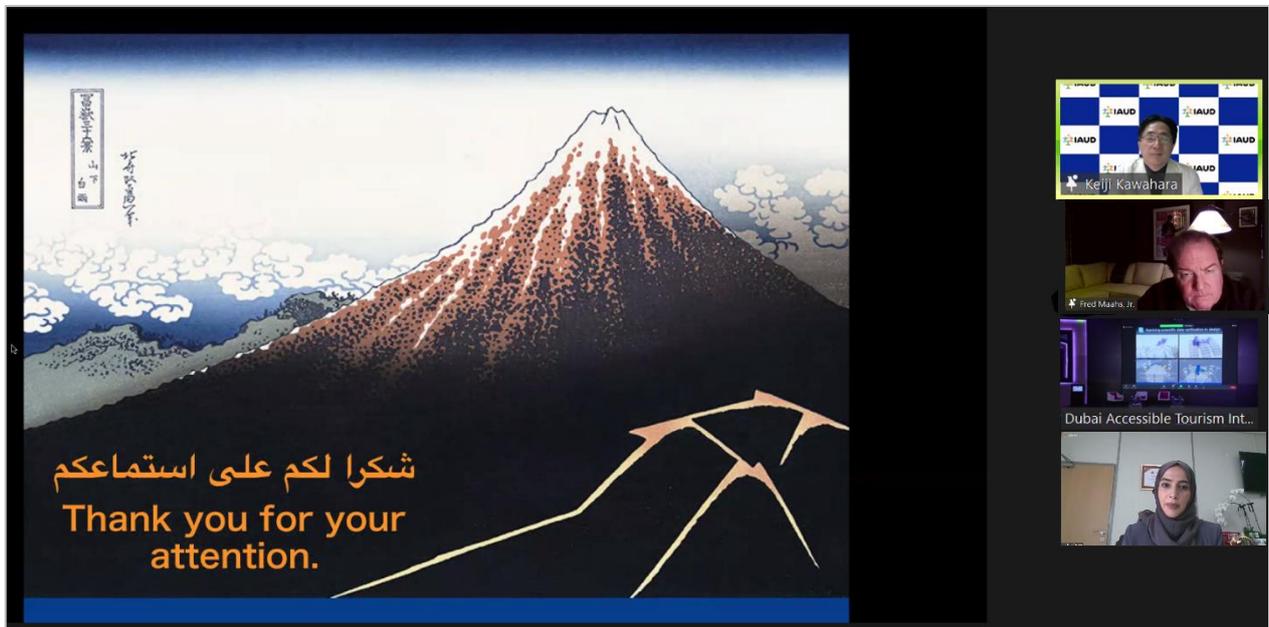
現在、世界人口の約 15%にあたる約 10 億人が障害者であり、2050 年までには 60 歳以上の人々が世界人口の 21%を占め、それらの約半分は障害を持つと予想されています。パンデミックで経済的打撃に直面している観光業界にとって、アクセシブルツーリズムには非常に大きなビジネスの可能性があります。

今回のサミットでは、障害者があらゆる都市にスムーズにアクセスできるための交通や建築事例、法律や政策に関する世界各国の見解や優れた実践例が紹介されたほか、パンデミックの影響で観光業界が直面した課題と解決への取り組みが共有されました。

さらに、アクセシビリティの改善がもたらすメリットへの理解と、都市が社会的責任のある持続可能な土地であり続ける意義も提示されました。

また、ドバイでは 2021 年 10 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで MENASA 地域(南アジアから、中東、中央アジア、北アフリカ)では初めてとなる「2020 年ドバイ国際博覧会(万博)」が開催されており、万博でも障害者へのアクセシビリティ改善を強くアピールしています。サミットでも、世界有数の観光都市に成長したドバイでのアクセシブル観光への取り組み事例が多く紹介されました。

パンデミック終息に向けた UD アプローチ



オンラインで講演する川原専務理事(写真右上)。映像は会場内スクリーン上に同時配信された。

今回は、「Universal Design: Will it be more helpful for tourist destinations to become accessible after the pandemic? (UD はパンデミックの後に観光地がアクセシブルになるために、もっと役立つのか)」のタイトルで 15 分間講演しました。

前回のサミットでは、IAUDの成り立ちや日本でのUDの発展状況など全般的なお話をしたので、今回は障害者や高齢者など日常生活に様々な困難を抱えている人々に焦点を当てた従来の(狭義の)UDの概念ではなく、Design for All(すべての人々のためのデザイン)の考えのもと、全人類の存続が脅威に曝されている新型コロナウイルス感染拡大、いわゆるパンデミックの終息に向けたUDのアプローチとして、現在、日本国内で実施されている方法について紹介しました。

世界からは日本は超高齢社会として最も高齢者の割合が多い国にも関わらず、なぜ感染者・死亡者数が少ないのか不思議がられてきました。握手やハグではなく、一定の社会的距離を保つお辞儀の習慣を持ち、住宅に入る際にも靴を脱ぐ、常に手洗いや入浴の習慣を欠かさない、冬季の風邪や春先の花粉症対策のためマスクの着用にあまり抵抗感がないなど、欧米と異なる日本人特有の生活スタイルが大いに影響していると考え海外の識者の意見もありますが、私はもっと科学的に捉えるべきだと思っています。

講演では、まず日本政府が2020年4月の緊急事態宣言の折に推奨した「三密の回避」や、地方の放送局が紹介した手作りマスクの作り方などはIAUDのホームページでも積極的に紹介したこと、IAUD国際デザイン賞2020で金賞を受賞した「PAND-AID」が一般の人々に新型コロナウイルス感染防止のために何をすべきかをわかりやすく説明している情報共有サイトであること、そして2021年2月にオンライン開催した「第8回国際UD会議2021 in ザ・クラウド」では、「新型コロナウイルス感染防止のためのデザイン」をテーマに講演やディスカッションを行なったことなどを紹介しました。

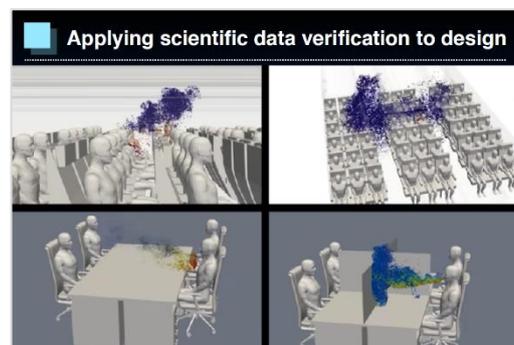


マスクの作り方を掲載したIAUDのHPを紹介

そして、ウイルス感染防止にはソーシャルディスタンスの確保やマスクの着用と共に、室内換気が重要な意味を持ち、空気清浄機や空調設備に紫外線や光触媒などウイルスを滅菌(不活性化)する機能を備えた機器をもっと活用すべきだと説明しました。

政府の感染防止専門家会議は保健衛生・医療関係者で構成されているため、感染防止における技術的観点からの意見がほとんど反映されていませんが、民間企業の間では、これらの空気清浄機や空調設備が感染防止に一定の効果が認められるとの判断のもと、それぞれに積極的なビジネス展開をしており、空気清浄機の販売台数は2020年に飛躍的に増加しました。

講演では、それらの各メーカーが開発販売している様々な製品や空港などへの設置事例を紹介し、一方、これらの開発には世界最速の演算速度を誇る理化学研究所のスーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーションも一役買っていることを説明しました。



スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション

今後は、レストラン、居酒屋、バー、ナイトクラブ、カラオケショップ、ライブハウスなど、人が多く集まる飲食やエンターテインメントの場を中心に、それぞれの店舗ごとの広さや椅子とテーブルの配置などレイアウトの条件と、換気扇、空調設備、空気清浄機の設置位置と台数の関係を最新のスーパーコンピューターによるシミュレーション研究で検証しながら、新たにデザインしていかなければならず、それに早く気づいて政策転換できる国々が広がっていくことでやがてパンデミックの終息につながり、高齢者や障

害者を含む多くの人々が再び海外旅行を自由に楽しめる世の中となるだろうと締めくくりました。

感染防止には新たな UD の考え方が必要



世界各国からオンラインで講演した登壇者との質疑応答(左下が川原専務理事)

続いて、スペイン、英国、イタリア、米国からの講演者によるプレゼンテーションが行われ、その後司会者との質疑応答が行われました。

私には、「日本がいろいろな機器を開発していることはわかったが、今やるべきことは何なのか」との質問がありました。

私は、「マスクの着用などに関しては国によって様々な意見があることは承知している。各国の生活様式や文化を尊重しながら対処していくべきだが、とにかく新型コロナウイルスは空気中にいつまでも漂っており、これをなんとか薄める必要があるので、換気は最も重要だ。その際に単に部屋の空気を入れ替えるという発想だけではなく、目に見えない空気(の流れ)を読んで、ウイルスをできる限り滅菌、不活性化することが大事。滅菌機能を持つ空気清浄機や空調設備を導入しつつ、設置場所や台数、部屋のレイアウトなどそれぞれの特徴に応じたインテリアデザインやプロダクトデザインを含めた、新たな UD の考え方が必要」と答えました。

※「ドバイ国際アクセシブル観光サミット」公式サイトは[こちら](#)をご覧ください。

※川原専務理事が講演した2019年11月開催の「第1回ドバイ国際アクセシブル観光サミット」報告を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



在宅で好きな時に UD 資格習得

第 24 回 UD 検定・初級オンライン開催のご案内

IAUD は「第 24 回 UD 検定・初級」をオンラインで開催します。

初級検定は UD に関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。実施期間中であれば、時間・場所を問わず講習から検定試験までを受けることができます。

問題はすべてオンラインで受講した講習内容から出題され、合否は検定終了後すぐに判定されます。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行し、名刺への記載も可能です。

申し込み受付は 2 月 17 日(木)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「第 24 回 UD 検定・初級」詳細及び申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第 1 回 UD 検定・初級」開催報告を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



「UD 検定・初級」オンライン講習画面

IAUD 2022 年 2 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7 10:00~ CM 字幕 PJ オンライン会合	8	9	10	11 建国記念日	12	13
14	15	16	17 第 24 回 UD 検定 初級申込受付締切	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日	24 14:50~ 衣の UDPJ オンライン会合	25	26	27
28						

次号は 3 月上旬発行予定

特集:IAUD 国際デザイン賞 2021 プレゼンテーション・表彰式開催報告/IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介①ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net